

令和7年度 第4回ニセコ町観光審議会 議事録

1 日 時

令和8年（2026年）3月25日（水） 14:00～15:40

2 場 所

ニセコ町役場 3階 町民ホール

3 出席者

委 員 下田委員、伊藤委員、菊井委員、高久委員、桑添委員、石黒委員、若杉委員、高井委員、玉尾委員 （9名）

ニセコ町 田中町長、山本副町長
（事務局） 商工観光課 馬淵課長、市原参事、米田係長、久保主事、勝木主事

オブザーバー 株式会社ニセコリゾート観光協会 中野事務局長、四條マネージャー
蘭越町地域おこし協力隊 森脇さん

4 内 容

(1) 田中町長挨拶

観光協会を牽引していただいた中野事務局長が4月から帰任され、観光庁から来ていた米田係長も4月から戻られるということで、新年度に向けて我々の体制も新しい顔ぶれになっていく節目のタイミングである。

今回の審議会では、アジェンダでも入っているが、前回観光振興ビジョンの中間点検についていただいたご意見を踏まえて、どのような発信の方法をしていくかも含めて、ご報告とご意見、ご審議をいただければと思う。

その他、観光に対して、この冬の状況も含めて皆さんいろいろとあると思うが、一歩ずつ前に進めていく会にしていきたいので、よろしく願います。

(2) 議題

「観光振興ビジョンの中間点検について（資料1）、観光振興ビジョン中間点検公表イメージ（資料2）、観光振興ビジョン施策の目標の関係性（資料3）」について事務局より説明を行った。

〈米田係長〉

資料1は中間点検のPPTの資料、資料2は実際のイメージである。資料3については、前回の審議会において、施策と目標の関係性を1枚でまとめたほうがいいと意見があったので、整理したもの。これについてもご意見等いただければと思っている。前回の審議会と同様に、事前に資料を送付したことからひとつひとつの説明は割愛し、皆さんにご審議いただく時間を長くしようと思っている。

資料1から説明する。2ページが前回審議会でもいただいたご意見を抜粋したもの。観光消費額、観光客満足度、リピーター率、生活が豊かになると思う町民の割合。3ページが今の数値目標で、これを変える部分と変えない部分が4～5ページ。4ページについては、観光消費額について、実際に指標を上げていく設定にしている。前回の審議会の中で、日帰りの単価が上がってきているのであれば、そこは上方修正するべきではないかとの意見があったため、そのように変えている。5ページはその内訳。2028年の赤字にしているのが変えている部分で、下に括弧書きで小さく書いているのが今までの数値。もともと日帰りの単価が15,000円だったところ、足元では16,000円というところ、22年は若干高いかもというところもあり、

20,000円に設定をしている。人数は変えていない。宿泊単価についても、目標であった80,000円をまだ達成していないが、施策との連動性で宿泊を促していくところがあるため、日帰りの単価と一緒に上げて、トータルで64億円と考えているところ。6ページ目は観光客満足度。前回、指標の名前をどうするかご意見があったが、名前自体は観光客満足度として、注意書きで書けばいいのではということだったので、最上位の「大変満足」の割合ということにして、それを小さく括弧書きで書いている。併せて、28年の目標(30%)は達成しているため、40%に変える。22年に一度達成しているため、再びそこを目指していくということにできればと考えている。7ページはもともとリピーター率を下げるという目標だったところ、わかりづらいとのご指摘があったため、新規来訪率に変えている。ただ、リピーター率は下げるが、実際28年の目標の数値を見たところ、リピーターの数が増えるものになっているため、それを明記していく。本文中に19年と20年度にこうなっていくと記載しているため、中間点検の本文に記載するということがいかか。資料8ページ目は指標の変更点で、指標1、指標3、指標4が変わる。9ページ目が新たな指標一覧で、変更の案である。10ページ目、2点目が中間点検のアウトプットについて、11ページ目に前回審議会を踏まえたポイントを書いており、資料2と平行して見ていただきたい。

資料2について、はじめに中間点検の背景と目的を記載しており、前回の審議会において、改めて観光振興ビジョンとして掲げる将来像を記載したほうがよいとの意見だったため、記載している。2ページ目以降が基本戦略と施策の方向性及びこれまでの取り組みで、前回お示ししたものと変更なし。宿泊税を使っているものは赤字にしている。今日欠席している委員より指摘があった部分も赤字にしている。3ページ目が中期目標(KPI)で、先ほど説明したところを図示しており、下に関連指標としてリピーター数を4ページにまたがる形で記載している。続いて、指標6(住民満足度)について、観光による効果の見える化で前回もお示しした。観光産業が町内雇用に占める割合、人口1,000人あたりの飲食店数、地域経済循環率も指標で出ており、先週開催された観光カフェでも出ていたため、具体的な数値を目標に掲げるわけではないが、しっかり把握・フォローしていく数値として、地域経済循環率もデータでお示ししようと思っている。6ページ(宿泊税の活用)は、中間点検のため、来年度、さ来年度の話でなく、総論として記載している。7ページ目(推進体制・役割分担)については、もともと観光振興ビジョンに記載があるもの。観光協会、町民、町内事業者、商工会、行政と5つ別れたものが本文にあるが、改めて整理したらどうかと指摘があったため、入れている。これからご意見をいただき、修正をして、間に合えば3月中に公表できるようにしたいが、必ずしも期日に縛られずに、忌憚ない意見をいただきたい。

資料3については、先ほどもお伝えしたとおり、観光振興ビジョンの中間点検というところで、施策と目標の関係性、例えば、観光産業の安定的な経済活動と地域貢献が最終的に消費額の向上や延べ宿泊者数の増加につながっていく。厳密にいうと、消費額の向上は戦略1、2、3にかかる内容だが、全部だとわかりづらいため、軸となる指標に分けて示している。

(3)意見交換

議題について、意見交換を行った。

〈委員〉

本日の内容として、指標の見直しについて、中間点検のアウトプットについて、審議事項となっている。米田係長からも、中間点検のアウトプットについて内容と方法を議論してほしいとのこと。

指標の見直しについて、これまでの議論を踏まえて直してもらっているが、前回ご意見した方で意図と違った点など、なにか気になった点はあるか。

〈山本副町長〉

指標の見直しについて確認したかったのが、観光消費額の令和元年407億円という数字は、何を根拠にしているのか。

〈委員〉

5 ページに内訳を入れている。入込数（日帰り・宿泊）でそれぞれ出しており、単価については、観光圏での調査の中でいくら使ったか聞けるので、消費額を出している。

〈委員〉

補足として、最新のアンケート結果は出ているか。

〈市原参事〉

ご指摘いただいた点について、25年度分も到着はしているものの、観光圏毎の個別の報告がおそらく今週届くので、そちらを使ったほうが良いと思い、今回は皆様には配布していない。

〈委員〉

議論がまとまりつつある中で申し訳ないが、リピーター率の指標をなくしてよいのか、違和感がある。KPI を増やしてはいけない理由はないため、リピーター率は残しながら、前回観光協会事務局長が発言した夏季のグリーンシーズンの新規顧客（初来訪）の率を上げるという指標を増やしたほうがニセコ町が目指すべき観光地としての KPI ではないか。グローバルに見ても、今の時点で、リピーター率を KPI から落とすのは違和感がある。

もう一点、前回もいただいた宿題で、満足度について、最上位満足度や上位満足度という言葉であれば、収まりも良かったため、名称変更ではあるが、ご検討いただきたい。

しかし最終の段階のため、委員長に一任する。

〈委員〉

意図的にリピーター率という指標を無くしたのではなく、前回はリピーター率を下げる目標になっていたため、新規来訪率という項目に名前を変えただけと理解している。リピーター率という名前を残す選択をしなかっただけという理解でよいか。

〈米田係長〉

考え方としては、リピーター率と新規来訪率は表裏一体ということ。新規来訪率を上げていくというのは、リピーター率を下げるという現行計画と変わらない。

ただ、これまでの審議会においても、リピーター率を下げるというのは考え方として納得できるものではないというのは、ご意見を伺った。実際、リピーターは大事だという考えはあり、リピーターの数自体は増やしていきたいため、関連指標として上げている。

関連指標を K P I に上げてもいいのではというご指摘はそのとおりで、率を追うのか数を追うのかという話もあるため、一旦元のから変更ないように考え方を変えた。ただプラス a でリピーターを増やしていくのは、元の計画からそうになっているため、あえて明記をしている。

〈委員〉

リピーター率と新規来訪率は両方とも重要だが、観光入込数の目標としては、総数があり、その中に新規とリピーターの分布があり、どのように伸ばしていくのかがわかる表現を取り入れてはどうか。

〈委員〉

どのような書き方があるか。

〈委員〉

数学的なニュアンスの表現だと思うが、来訪者に対して、「新規」「リピート」というとこ

ろを%で分けているため、どっちかが減るとどっちが増えるという表現になっているが、%ではなく、数で示すとどうなるか。

やはり冬は、観光業者はリピーターの数を落とさないことを狙っているが、ただし、新規の方を迎えるキャパシティがあるのは、夏。そこで新規を入れるため、%を数に直すとどのように見えるか知りたい。

〈委員〉

もともとリピーターの数自体は増える計画になっていて、新規獲得者数の率の割合が大きくなったため、リピーター率が下がったように見えることから、うまく表現する方法はないかと話があったが、リピーター率、新規来訪率という表現にこだわるのかどうか。

新規来訪者数の増加目標であったり、リピーターの増加目標に置き換えるとすんなり落ちるが、その表現が一般的かわかりかねるため、数としてどちらも増えることは間違いないが、見え方を工夫できるように皆さんからもご意見をいただきたい。

〈委員〉

米田係長へ、指標を増やしたくなかったわけではなく、裏表の関係のためということだが、指標を増やして両方とも数字にすることは可能か。

〈米田係長〉

可能。関連指標としてリピーター数を書いているが、指標2の延べ宿泊者数のところ、本来であれば、日帰りも含めた数かと思うが、指標2に設定しているのが延べ宿泊者数であるため、80万人が目標になる。新規来訪率が30%のため、リピーター率が70%、80万人×0.7をしたのが56万人となっていて、新規は24万人となる。令和元年については、47.3%のため、リピーター率は8割のことを踏まえると30何万人と増えていくし、新規においても増えている形となっている。何が一番わかりやすいのかということはあるのかなと思っている。

率としているのは、必ずしも量ばかり追いかけるものではなく、数を増やしていくことにいずれ限界がくるため。前回の審議会でも議論あったが、コロナ禍でつくっていたことから全体として数をどう増やすか、量より質ではないかということもあり、全部が数ではなく、割合についても設定したのではないかと推察している。アフターコロナのため、指標を増やすのも良いし、リピーターの数を変えるのも良いと思っている。

〈委員〉

そもそも観光審議会において、どのような観光地を目指すのか観光振興ビジョンとしての数字を出しているが、事業者の立場からすると、リピーター・新規に関わらず顧客第一主義が多いと思う。この辺の数値を公で目指すことについて違和感がある。

ニセコ町が観光としてどこを目指していくことが大事と思っている。数値は粛々とやればいいのかと個人的な思いがある。米田係長が言ったように京都のように数ばかり追うと、ニセコらしさを失うのではないかという懸念がある。それは事業者によっても季節によっても違うため、今の課題は夏の誘客と冬の顧客満足度を上げること。あまり数字にとらわれすぎないようにしていきたいというのが個人的なところ。事業者側としては、数字を頑張っていて決めたところで、次の議題（アウトプット）において、町民や事業者がこれを見て頑張るぞと思う場面があるのかピンとこない。

〈委員〉

n数がたった7人のアンケート結果を根拠にしているのであれば、それを基にしたニセコ町の観光政策目標値とするのはミスリードになるので信用し過ぎない方が良い。リピーター

率を下げることを目指す事業者がいないため。

というより、今日明日の売上や人手不足が喫緊の課題のため、深くここで議論したことで誰が喜ぶのかなと思った。

〈委員〉

皆さんのお話を聞いて納得することが多かった。米田さんの話を聞いて、数字の裏表と掛け算について理解できた。

中間点検のアウトプットにつながって来ると思うが、見たときに見やすさや理解度のところでいうと議論と説明が必要なことを踏まえるとマイナスな印象を受けた。同じようなことを言っているにしても、初見で見た人が理解しづらいため、指標を増やしてもいいのではないかと考える。

〈委員〉

リピーター率は母数が全体なので、目標として残したほうが良いと思う。一方で、例えばグリーンシーズンの新規来訪者数を新しい指標にすると、皆さんがおっしゃっていたことを内包する設定になると思う。ただ、設定する場合、確実にサンプルが取れるアンケートなど、確度の高い検証ができる体制が必要になる。そこは年間の数字で丸められないのでお手間になると思うが。

〈委員〉

米田係長または馬淵課長はいかがか。

〈馬淵課長〉

色々な考え方があがるため、迷うところではあるが、委員がおっしゃったようにサンプルの取り方について、これ満足度調査を観光圏で夏と冬で分けて取ってはいるものの、まとまっているのがトータルになっている。夏の数値を出すためには、一括して事業者に預けているものをどのようにに分けるのか議論と検討が必要であり、事業者の変更も考えなければならない。

今時点（中間点検）において、その数値の目標値を立てていこうという中で、皆さんにお示しできる数値がない状況。

〈委員〉

指標の見直しについては、米田係長、なにかあるか。

〈米田係長〉

指標を見直しする場合、リピーター率は残すが、割合を下げていくというのは見え方として良くない。今は70%に下げている目標があり、リピーター率も残すとなると、上げていく考え方になるが、どこまで上げるのが正しいのかという議論がある。指標を変えていく場合、70%を何%にしていくべきか調べる必要があり、皆様からのご助言もいただきたく、もう少し時間がかかると思われる。

夏の新規来訪者数についても同様に、現時点ではそのような状況のため、冒頭でスケジュールありきではないと申し上げたとおり、あくまで中間点検であり、近い未来に一から計画を作るというタイミングがあるため、要素が決まっているわけではないが、足していくことでも良いと思う。

〈委員〉

指標の見直しについては以上としたいが、副町長から観光消費額の話があったため、探したところ、この冬に倶知安観光協会が行った調査があり、ニセコ町と全国平均での国別一人

当たり旅行消費額が、2024年観光庁のアンケートにおいて、ニセコ町での消費額が2.2倍と結果が出ており、N数が331となっている。

次はN数の取り方・場所の問題になってくると思うため、このあたりを継続的に議論できればと考えている。

次の議題。中間点検のアウトプットについて、アウトプットの方法、内容について議論したい。3月中の公表としているが、どのように公表するのかどのような場で公表していくのかを議論するということか。

〈米田係長〉

議題になっていたのは、目標の部分だけだと思っている。1〜7というところで記載している。

先ほど説明したとおり、いただいたご意見を踏まえたつもりだが、不足や追加したほうが良い点を内容の部分に記載している。方法については、観光振興ビジョンを町のHPに掲載しているため、中間点検を了承された場合には、同様に掲載する予定。あとは、観光振興ビジョンに限らず、持続可能な観光というところの周知・広報が足りないと言われていたため、中間点検が了承された際に、町の広報ニセコに掲載していくことや観光カフェで取り上げてもいいと思っている。ご意見も伺いたい。

〈委員〉

内容の濃いものとなっているが、このような内容で公表することについて意見をいただきたい。

〈委員〉

資料2の7ページについて、推進体制と役割分担の部分を足していただいたと認識している。

資料3について、基本戦略1, 2, 3となっており、具体的な計画になっている。推進体制、ニセコリゾート観光協会とその他多様な主体となっており、役割が下書いてあるが、資料3の計画と役割を持った主体の、アクションプランの結びつきがないと思っていた。そのあたりの見せ方が町民や事業者、商工会に伝わっていくのか気になりました。

〈委員〉

資料を作る際、色々と塗り足しがあつたかと思うが、悩んだ部分はあるか。

〈米田係長〉

資料2の7ページの役割分担については、観光振興ビジョンに書かれているものを引用しただけ。

資料3の落とし込みについては、資料の左側、戦略と施策の方向性について、この見せ方でいいのか、消費額をいくらを目指していくかを書いたほうがいいのか、あるいは主体的なところ（だれがなにを）などの見せ方が難しく、議論が必要だと思った。

本当は、例えば観光消費額の向上、もっと細かい夏の誘客など、一つの取り組み自体に複数の指標がリンクしてくることになるが、そこまで入れ込むとわかりづらいと思ったため、どこまでが見せ方として正しいのか悩んだが、一旦、シンプルなほうがいいと思い、戦略1, 2, 3と指標を分けることで整理した。

〈委員〉

今の話に関連して、7ページでは、役場の役割を強調した書き方になっているが、主体は多様な事業者、町民であり、町のすべての人々に対して主体たる立場（役割）の意識をもつていただきたいと書いではどうかと思った。つまり、観光協会を中心とした推進体制となって

いるが、関係は一方的ではなく、主体である町民や事業者を支援する関係にあるため、左右を変えるだけでだいぶ違うなと思った。やはり、実施主体は町民であるということを明記したほうが誰に対しての報告なのかわかると思った。

もう1点は、5ページの地域形成循環率。図の見方としては、平均や他の町と比べた数値を書いているが、循環率で100を超えた場合、何を意味しているのかを記載しないと町民は理解に苦しむため、70.3%をもう少し説明する必要があると思った。(何が良くて何が悪いのか、他の事例を見て見習うべき、見直すべきところはどこなのか。)

一番はじめに観光ビジョンにおいて、持続可能な観光リゾートと謳っているわけで、その中の3つのうち、成熟した国際リゾート、高品質、高付加価値と打ち出している。町民が豊かさを感じることを何を持って判断するのか、消費額×域内残存率＝循環率が豊かさに関係すると文言を入れてほしい。役割分担においては、主体は町民だと全面に押し出ししていくべきではないか。付加価値が高い、量から質へ、ということは成熟した社会に必要な考え方だし、付加価値を表すには、額の増え方と町の中に残る割合によって豊かさが変わるんだという考え方を採用していただきたい。

〈委員〉

先日の観光カフェにおいて、北大の金井さんがお話いただいた時にも経済循環率の話は出たが、結論部分について、普段見ている人でもかなり分解しないとわかりにくいと思う。

ただ、豊かさという数字で表現しづらい要素についてもまた別の考え方だと思った。経済の豊かさも大事だが、その点はいかがか。

〈委員〉

素晴らしい冬が終わろうとしているが、一つに限らず、色々な国の人に利用いただく環境、このような会議の場があることが素晴らしいなと思った。

アウトプットの話もこれから重要だと思っている。事業者のトピックなどを各々が出したりすることがあるが、行政からの、精査したうえでのアウトプットはとても重要と考える。

例えば、ニセコを追従する京都や白馬など、海外にも向けた話も出ている。特に白馬は素晴らしい取り組みであるニセコルールなどを追従している。

ニセコが自然環境を活用して、こういった会議の場、サービスも含め、やってきたことが一つ日本の宝になると思う。

〈委員〉

内容についてももう少し説明が必要な箇所があるのではないかという印象だが、説明を盛り込むと紙面が膨大になるので、説明の場なり、そこにフォーカスを当てた説明の仕方が必要であると思う。7ページだけでもボリューム感があり、どこをどう解釈したらいいかわからない部分があるので、発信の方法という話になる。

このまま方法という話に議論を移していきたい。

中間点検のアウトプットの報告方法について、米田係長からHPに掲載するという話があったが、載せて終わるのはもったいない、町民の方にもっと知っていただいたほうがいいという話があったので、どのように周知していくのか伺いたい。

今まで町で取り組んだことはあるか。町民講座などはないのか。

〈馬淵課長〉

前回変えた時は、広報には掲載している。今回考えられるのは、HP、広報紙、事業者向けになるがオレンジメールの一斉配信が可能。

また、町民講座、観光カフェといった手法も考えられる。

〈委員〉

少し話が戻るが、中間点検の役割分担の部分で、DMO 議論が全く感じられなかった。観光協会が DMO を目指すのか目指さないのか、誰が考えて誰が進めるのか、推進体制にもかかわるが、ここは触れなくてよいのか。

〈観光協会〉

現状、観光協会では、議論はしているが目指すという結論には至っていない。DMO の制度が変わり、特に小規模の町村・観光協会にとって負担が大きい制度に変わってしまった。各団体にヒアリングをしても、DMO の断念を考えている話が聞こえてくるため、様子を見ているところ。

内部の議論で、DMO になるかならないかというよりも、なぜ DMO という制度があるのか、DMO を目指すことでニセコ町にどんなメリット・デメリットがあるのかということを議論することが重要と考えている。継続して議論していくが、ここには書かなくていいと思っている。よく DMO になるかならないかという議論になるが、これは結論を急ぎすぎで、メリット・デメリット、そもそも DMO の本筋とは何かという議論が深まれば良いと思っている。

〈委員〉

観光協会の内部で考えるものであれば、書いていいと思う。もしくは外で行政や町民などが決めるのであれば別だが、そうでないのならば観光協会と書いてしまって、それがまず一歩だと思うが、ご意見はあるか。

〈委員〉

まず観光協会が、文言として DMO や DMC を選んで表現することを目標にするのではなくて、観光協会の理念を確認したうえで、自立するために必要な要素としてどのような取り組みが必要かという整理するのが重要。

ここに直接書き込むかどうかは、観光協会内部のコンセンサスによると考える。

〈委員〉

アウトプットの報告方法に話を戻す。オレンジメールなどで配信できるとのことだが、ほかにも方法があるんじゃないかと、効果的ではないのではないかななどの意見はあるか。

〈委員〉

役場内に掲示したり、例えば標語を作るなど、役場内で見える化して、町民に見てもらえるように発信していったらよいのではないか。

〈山本副町長〉

アイデアベースだが、例えば広報にしても、切り分けてシリーズで出すという工夫をすれば、皆さんに考えてもらえる機会が増えるのかなと思う。

例えばビジョンの中でも、面白い指標、今まで町民・事業者の皆さんが意識してなかった指標がうかがえるので、「第～弾では『観光産業が町内雇用で占める割合』を出す」など区切ったほうが、一回発表して終わりよりも注目度が上がる気がする。

〈委員〉

今のアイデアは、全体の理解と部分理解を促すというところで素晴らしいと思う。確認だが、発表の主体は審議会ではなく町になるのか。

〈山本副町長〉

はい。

〈委員〉

解説についても、できれば町の解説だけではなくて、関連した事業者、街の声なども含めて編集して広げていったらどうかと思った。

〈委員〉

テーマによってわかりやすいものと解説が必要なものがあるので、テーマを区切るのは良いと思う。テーマを実際に深堀するのは、役場が主体的に発信するのは理解できるが、時間的・労力的に現実的なのか。

〈馬淵課長〉

副町長からも申し上げたところだが、観光振興ビジョンの一つの目標値について、関連することを一つずつやっていく際に、宿泊事業者がどう考えるかということを取材して、意見として盛り込むなど、例えば審議会委員の考えを記載するなど是可以すると思うが、どこまでボリュームをふくらませるかは要検討。

例えばニセコ町の広報は、特集ページ・情報室・お知らせの3部構成のほか、シリーズものを3か月に1回流している。全くできないわけではなく、例えば3回に分けてシリーズにするのは可能と思う。ただそうすると1年が経ってしまい次のビジョンを考える時期となるため、今回の中間評価でそこまで必要ではないと考える。

〈委員〉

どこを絞って発信するかという話になるが、町民の皆様、観光事業者が知りたいところ、関心を持ちやすいのはどのような分野なのか。

〈委員〉

発表するに対して、どのくらいの時間、予算、スピード感をもってやらなければいけないのかということだと思う。

参加者・事業者は、中間点検の結果のみではなく、次は何が起こるのかということに注目する。その魅力がないと、紙1枚もらうだけで、現場の実感と違う・違わないで終わってしまう。

費用感にもよるが、資料にも登場する白馬だとか、気になっているツーリスト・ディステーションとのディスカッションや、その方たちから観光振興ビジョンに対して意見・質問をいただいたり、白馬の事業者はこの数値に対してどのような反応を示すのか、という内容だと、魅力的な話になると思う。それに対してニセコ町が出している目標はどのような立ち位置なのかを理解するのは魅力的な内容である。

ただ、あまり時間をかけすぎると1年たってしまうので、そこは程々にとと思う。

〈委員〉

町民として関心を持ちやすいこと、観光事業者が気になっていること、参加してよいと思えることというのは、どういったフォーカスを当てていくべきか。

〈委員〉

例えば、宿泊税をどう使うのか。

〈米田係長〉

それも然り。今回ロードヒーティングについても、議決はされているけれども、町民の方はあまり知られていない。

〈委員〉

町民としては、宿泊税がどう使われているか漠然としているのと、宿泊税そのものがあま

り深く理解されていないので、町民の感覚としては宿泊という名前から宿泊に準じたものに使われるイメージがあり、現実との乖離がある。あったとして問題があるかということにならない気もする。

事業者としては、随時、宿泊税の使途、結果、フィードバックをもらえると、そのあとで使途について議論しやすいので、事業者にとって健全と思う。

〈委員〉

昨年度は宿泊税の使途、検討などヒアリングの場があったが、今年度は計画はあるか。

〈馬淵課長〉

宿泊税のヒアリングについては、ルーティン化をしていこうということで何度かお話している。上半期・下半期の2回、事業者を含めた意見交換を行い、上半期は今シーズンの冬の状況を踏まえた意見交換、下半期は今シーズンの夏の状況を踏まえた意見交換、例えば改善すべき点、役場がやるべき点、観光協会がやるべき点などの意見を吸い上げ、観光審議会の皆さんと議論しながら事業化を図っていくという手法になっている。

また、宿泊税の使途・評価は役場も必要と思っているので、情報発信についても、令和6年度はHPと事業者にお知らせしている程度だったが、今後はさらなる充実を考えている。

〈委員〉

宿泊税については制度が変わっていくので、関心ごとだと思う。またそこがニセコ町らしさを出しやすいと思う。

〈馬淵課長〉

宿泊税の最初のお知らせは、「もっと知りたいことしの仕事」になる。財源として宿泊税活用というのが必ず乗っている。まずはそこで町民の皆様にお知らせしていく。

〈田中町長〉

そもそも観光振興ビジョンをなんのために設定しているのか、というところに立ち返る必要があると感じた。

行政はビジョンが様々あり、ニセコ町は特にビジョン・計画がたくさんある。その全ての中身を町民が理解しているかということ、おそらく町職員ですら他の課の計画まで理解できていない。大前提として、ビジョンが必要だと思ったときに、そこに立ち返れることが最低条件として必要と思っている。ビジョンの中身を町民が全部理解することよりも、そもそもビジョンが何のために取り組んでいるのか、町がどのような観光をするのか、というときに立ち返れる、心のよりどころになるということが、ビジョンの役割と思っている。

そうしたときに、既存の媒体で出すことも必要だし、広報紙などでお知らせしていく、もしくは拡大してラジオで企画をするとか、日常の中で触れる機会を作っていくことが重要。なぜ作るのかということをも改めて考えたところ、ニセコの観光の方向をどうしていくべきかを立ち返れるのがビジョンの役割と思ったので、ビジョンの中身よりもなぜ設定したか、なぜこのようなKPIを設定したかということをも広く周知するべきと思う。

ただ、今回は新設ではなく中間点検なので、これまでどういう経緯で取り組んできたかを含めて説明が必要と思っている。

〈委員〉

将来に引き継いでいくことが重要。

昨日、バルセロナ市と、計画をどのように市民に知らせるべきかについて意見交換してきたのだが、そこで出たのは、1つは公園・ショッピングモールなどにA0ポスターを貼る方法で、もう1つは子供が読むトピックを学校に渡し、子供を通じて親にも読んでもらう方法。後者は将来にもつながると思う。

〈委員〉

おっしゃるとおり。子供向けに配布すると、大人にも伝わる入口になるし、子供にもニセコ町＝観光のまちとして継続的に知っていただくという点で、まちづくりにつながると思われる。中間点検ではありつつも、宿泊税が変わるのは大きな転換点であり関心ごとであるのは変わらないので、そこを少し強化いただきたい。

ほかにもアナウンスしてほしいところなどないか。

〈観光協会〉

観光協会としてよりは個人的に、次のビジョンについても考えないといけないなと思っている。「ニセコ町のこの先の観光未来をみんなで考えよう」でもいいと思うが、将来的には新幹線・高速道路もあるので、少しでいいので次のステップを書いていただけると、我々も使いやすい。

〈委員〉

今後のことにつなげるということで、今後のスケジュール感はどうなっているのか。ビジョン、審議会含めて、見えているスケジュール感があれば伺いたい。

〈米田係長〉

観光審議会自体で決まったものは年度単位でいうと1回。昨年11月に開催したが、観光振興ビジョンの指標のフォローアップ兼宿泊税で何をやっていくか。その前段として意見交換会を実施することになっているので、その結果と、町として議会にどう提案していくかを必ず決定することにしていて、引き継いでいる。

それ以外については、定例で決まったものはない。例えば観光振興ビジョンをどうしていくか、あるいはPRに向けて、先ほど観光テーマごとに分けてという話もあったが、あくまで中間点検なので、次の29年度からの計画を見据えて、最終的な計画に向けた前段的なところでみんなで勉強していく際に町民にも参加していただければいいのかなと思っている。

中間点検のスケジュールでいうと、どこまで盛り込むかという問題とどこまでボリュームを増やすかという問題があって、例えば宿泊税の記載の強化をここでしていくのか、あるいは中間点検までの間に宿泊税の導入がなされていて、宿泊税の用途を決めるにあたっては年2回、お伝えをするのでとどめるでいいのか、中間報告の中を書くのかによって、中間検査を発表する時期が変わってくる。

指標もどのような整理をしていくのか結論が出ていないので、審議会として会長に一任なされて、我々と会長で相談するのか、もう一回審議会をやってから中間点検を出すのか、いかようにも対応できると思う。柔軟に対応可能。

〈委員〉

私に預けられたことがあるとすれば、アンケートを踏まえた確認という時間があって、29年度の計画ということは28年度に決めるということだが、アンケートの取り方が異なり指標に入れられないという議論があるので、28年度のアンケートの取り方・項目についても27年度のうちから議論するという、長いスパンのスケジュールが見えてくる。

〈米田係長〉

中間点検の出し方については、指標のところ、グリーンシーズンの新規来訪者など、時間はかかるが中間点検に盛り込むのか、あるいは新たな要素として、7ページのあとに今後検討の項目として入れるのか、委員の皆様のご意見を伺いたい。

〈委員〉

悩ましいが、数値として書けないということなので、今後アンケートをとるという方針を

出しながら、別軸として残すということ間違いはないか。

〈米田係長〉

そちらもしていくということになると、もう少し時間をかけて考えていったほうがいいし、リピーター率を増やしていくということであれば、70%が目標だが75%なのか80%なのかという議論もあるだろうし、今日の案だと、KPIの部分は完全に承認されたとは受け取っていないくて、要素として追加していく程度で良いものなのか、否か。

〈委員〉

完全に良いわけではないものの、それで進めてはいけないほど悪くないと受け取ったが、どうか。これで進めてはいけないという方がいらっしゃればおっしゃっていただきたいが、これで進めて、違和感があるところに関しては審議会を通して議論をすすめるということによろしいか。

〈委員〉

ご一任する。

〈観光協会〉

私も数字で出すのが一番いいのかなと思った。夏だけにこだわると夏の新規来訪者を入れないといけないので大変だが、そこまでしなくても年間のリピーターと新規来訪者を指標として、両方の数が増えていけばいいと思う。率にするとややこしくなる。

我々観光側が言いたいのは、全体の総数も増やしたい、そのためには新規獲得のためのプロモーションなり努力をしていきたい、リピーターについても当然来た人に対するサービス水準を高く保っていききたい、ということと理解している。

〈委員〉

そこも数字で書くことができるのであれば異論はない。グリーンシーズンととらえると数字をとらえられないから、それは将来的なこととして、現時点で出す数字としては、リピーター率は数字として載せる。

そうすると目標値をいくつにするかという議論をもう一回しなければならぬ。

〈観光協会〉

×総数で簡単にらせるので、数字でよいと思う。

〈委員〉

掛け算で結果的に出てくる数字ではあるものの、リピーター数として書くのが網羅的。

〈米田係長〉

指標4を率ではなく数で書くということか。

〈委員〉

両方書くということと理解している。

〈観光協会〉

指標4の中に2つあっていいと思う。

〈委員〉

では、お戻しする。

〈米田係長〉

1点ご報告で、内々にお願ひできればと思うが、ニセコ町の宿泊税を定率制にする件で、議会の議決をいただき、いま総務省協議をしているところ。近日中に承認いただけると聞いている。そのあとの話になるが、導入対応支援交付金という制度を特別徴収義務者たる宿泊事業者にお配りしている。

事前にシステム改修があるかアンケートをとり、制度設計をして交付金という形に落ち着いた。定率制に変わること正式なOKがでたタイミングで、今回も事業者にアンケートを実施する。使途としてDX補助をやることは説明しているが、どのようなシステムにニーズがあるのかということも併せて調査をして、設計していく。ご報告まで。

〈委員〉

率は決まっているのか。

〈米田係長〉

3%で決定している。

〈委員〉

ニセコ町は、国内でも先行で、高額な方が泊まる地域と思う。

そのような状況の中で、どちらかというとも累進課税を選択してもいいのではないかと思っている。あまりにも格差がある。高い宿泊料金には高く、安い料金には安くすれば、ある程度今までの人たちも守れるのではないか。

〈馬淵課長〉

他に発言はないか。

最後に町長から何かあるか。

〈田中町長〉

特になし。

〈馬淵課長〉

それでは、次回の審議会については、改めてご相談させていただく。

以上を持って、令和7年度第4回観光審議会を閉会させていただく。

以上